

蓮沼中鏡

「窓の外には」…優しい心が一番大切だよ

7月8日に都庁で、全国高等学校総合文化祭壮行会が東京都高等学校文化連盟主催で行われました。私は東京都中学校文化連盟の会長として、招待されてこの会に参加しました。この会では、東京都代表として選ばれた各部門（演劇・音楽・囲碁・美術・書道など）が、その部門を紹介するのです。マーチング・バトントワリング部門代表のかえつ有明高等学校が、マーチングの伴奏で手話つきの合唱を披露してくれました。それが、「窓の外には」という曲です。

この曲は、小森香澄さんが9歳のときに書いた詩をもとにお父さんの友達が、補作してメロディーをつけて完成した曲です。

小森香澄さんは、横浜市に住む女の子でした。香澄さんが生まれたとき、お母さんは「人の心の痛みのわかる優しい女の子に育ててください」というメッセージを書きました。香澄さんは、明るく優しい子に育ちました。

音楽の大好きな香澄さんは、吹奏楽の盛んな高校へと進学し、吹奏楽部に入部しました。意欲的に練習に打ち込んでいましたが、やがて学校に行くのを嫌がるようになったのです。原因は、言葉による部活内における「いじめ」でした。「汚い」「あっち行って」と言われたり、髪型に文句を言われたり、無視されたりと、仲間はずれにされる日々が続きました。もちろん、いじめられる理由も覚えもなかったのです。

両親は学校に相談しましたが、いじめはなくなりませんでした。香澄さんは、どんどん追いつめられていきました。

1998年7月に香澄さんは、自宅のトイレで首をつって自殺を図りました。発見したお父さんの通報ですぐに病院に運ばれました。数日間は命をとりとめたものの、結局香澄さんは帰ってきませんでした。

香澄さんが亡くなる少し前のことです。お母さんと買い物に出かけた香澄さんは、いじめのことをいろいろと話しました。その話の中で香澄さんがふっと言った言葉があります。

「お母さん、本当にかわいそうなのは香澄じゃないよ。こんなことをして、人が苦しんでいることを理解できないあの子たちの方が、よっぽどかわいそうなんだ。ねえ、お母さん、優しい心が一番大切だよ。」

こんな意味の込められた、「窓の外には」を一度聴いてみたり、演奏してみたりしてはいかがでしょう。

「窓の外には」

作詞：小森香澄 補作：平島嵩大

作曲：平島嵩大

窓の外には夢がある、夢のとなりには自然がある
自然の上には空がある、空の上には星がある
私達が生きる地球という船で
例えどんな事があっても
希望を見つけて生きていけば
笑顔はきっと戻ってくる、明日の朝日胸に抱いて
思い出、手の中握りしめて
また明日一つ夢を見る
星の向こうに未来がある、未来の向こうに愛がある
愛の中には心がある、優しい心がそばにある
私達が歩む大地の上で
例えどんな事があっても
愛という芽を育ててゆけば
幸せはきっと花を咲かせ、未来の命つないでゆくよ
思い出、手の中握りしめて
また明日一つ夢さがす
夜空に輝くいくつもの星加
私の心につぶやいた、君の未来も輝いているよ
自由の翼力強く、そしてまたひとつ大人になり
優しい心に飛び込もう、窓の外には夢がある